

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 東郷 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

#### (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の3年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・32問中24問は全員が解答しており、無解答率については全国を上回っているものが多い。 ・書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する力において、全国を上回っている。
	よくできた問題	・書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているか検討する問題
	努力が必要な問題	・目的に応じて文の成分順序や照応、構成を考えて文を書く問題
国語B	全体的な傾向や特徴など	・文章を書く問題に対して苦手意識があり、無解答率が高い。 ・文章とグラフとの関係を考えて内容を捉える力に関して優れている。
	よくできた問題	・登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる問題
	努力が必要な問題	・相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く問題
数学A	全体的な傾向や特徴など	・計算問題を苦手とする生徒が多い。 ・一次関数については、無解答率が0であり、正答率も全国を上回っている。
	よくできた問題	・反比例のグラフから表を選ぶ問題
	努力が必要な問題	・等式、比例式、連立二元一次方程式の計算問題
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全体を通して無解答率が高く、正答率が低い。 ・図形において、付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することを苦手とする。
	よくできた問題	・計算の順番を入れ替えたものを選択し、その計算結果が何の倍数になるかを求める問題
	努力が必要な問題	・A駅からの道のりが6kmの地点において、列車Aが通ってから列車Bが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する問題
理科	全体的な傾向や特徴など	・光の反射の幾何学的な規則性についての知識・技能を活用する力、風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる力に優れている。
	よくできた問題	・ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘する問題
	努力が必要な問題	・植物を入れた容器の中の温度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する問題

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家で自分で計画を立てて勉強する生徒の割合は47%で昨年度を下回り、全国平均の79%をも下回った。</li> <li>・家で、学校の宿題をしている生徒の割合は、91%で昨年度より上回り、全国平均ともほぼ同じ割合になった。</li> <li>・学校の授業時間以外に、月曜から金曜日に1日当たり60分以上勉強している生徒の割合は35%で昨年度を下回り、全国平均の71%をも下回った。</li> <li>・学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒の割合は、59%で昨年度より上回ったが、全国平均の76%には及ばなかった。</li> <li>・学校の規則を守っている生徒の割合は、85%で昨年度を下回り、全国平均の95%にも及ばなかった。</li> <li>・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある生徒の割合は、62%で昨年度を上回り、全国平均の59%をも上回った。</li> <li>・自分には、よいところがあると思う生徒の割合は68%で昨年度を上回ったが、全国平均の79%には及ばなかった。</li> <li>・将来の夢や目標をもっている生徒の割合は、65%で昨年度より下回り、全国平均の72%にも及ばなかった。</li> <li>・人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合は、97%で昨年度を上回り、全国平均の95%をも上回った。</li> </ul>

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導を通して、一人一人にきめ細かな指導を行い、基礎基本の定着を図る。</li> <li>・授業中の話し合い活動を通して、生徒の主体的・協働的な学びを深めていく。</li> <li>・「めあて」「まとめ」を自分の言葉で書き、授業の終わりには「振り返り」を行うことを習慣づける。</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・東郷ノートを一層活用し、生徒の自学自習の習慣づけをする。</li> <li>・週末課題の提出を徹底させるとともに内容を充実させ、生徒の基礎・基本の定着につなげる。</li> <li>・試験前は生徒作成の予想問題や教師作成のでもかもプリントを通して、生徒の自主的な学習の質を高めていく。</li> </ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------